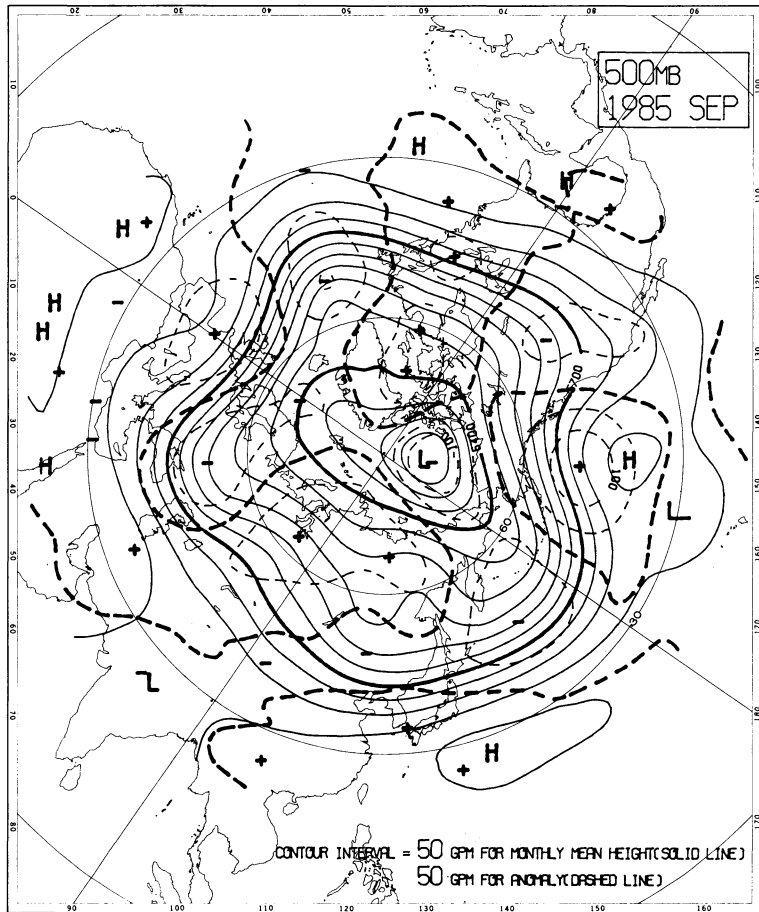


## 月平均500mb 天気図. 1985年9月

(破線は平年からの偏差. 単位m)



## 中緯度で波数5が卓越, 南北流型へ

平年ではグリーンランド付近に位置する極うずは、ベーリング海北方で発達しており、5400mの等高線の伸張の軸は $0^{\circ}$ — $180^{\circ}$  (平年は $90^{\circ}$ W— $90^{\circ}$ E)に伸び、平年の状態に比べると $90^{\circ}$ 位相のずれがみられる。

北半球の大気の流れでみると、7~8月にかけては東西流型であったが、9月は一転して南北流型に変わった。中緯度では波数5が卓越しており南北交換が行われていることを示す。ウラル地方、アラスカ湾、西ヨーロッパで気圧の尾根が顕著となり、これらの地域では気温は平年より高くなった。一方、寒気はアメリカ西海岸、大西洋、東ヨーロッパ、カムチャッカ半島付近に南下し、これらの地域は低温となった。

極東域をみると、太平洋高気圧が平年よりも強く、

$15\sim 20^{\circ}$ 西偏して発達した。西日本はこの影響下に入り、きびしい残暑となった。西日本の月平均気温は平年差 $+1\sim +2^{\circ}\text{C}$ とかなりの高温であった。

一方、日本の東方海上では、極うずから延びる谷の影響で強い負偏差(標準偏差の2倍)を示し、顕著な東谷型となった。このために、北日本を中心に寒気が入りやすく、秋雨前線が活発で関東地方も曇りや雨の日が続いた。平年に比べ西谷が弱められているため、日本付近はどちらかという気温はあまり下がらず、降水量も日本海側を除いて平年より少なかった。

極うずが西半球で発達すると、太平洋高気圧は強くなるといわれているが、今年もその例にもれなかった。

(気象庁長期予報課 松林繁樹)